

こばんはうすさくら堺教室 放課後等デイサービス発達支援 平日午後のプログラム

法人理念	「すべての答えは、児童の中にあります。可能性を見つけてさしあげる集団になろう！」
支援方針	・個別支援の充実：一人ひとりの発達段階や特性に応じた個別支援計画を作成し、適切な支援を提供する。 ・小集団活動の促進：コミュニケーション力や社会性を育むために、小集団での活動を取り入れる。 ・スモールステップの学習：無理のないペースで成功体験を積み重ね、自信を育てる。 ・感覚統合アプローチ：感覚の偏りに配慮し、適切な感覚刺激を提供することで身体の使い方をサポートする。 ・言語発達支援：理解語彙や表出語彙を増やし、コミュニケーションの幅を広げる支援を行う。 ・日常生活動作の習得：生活に必要な動作を自立して行えるよう支援する。 ・協調運動・粗大運動：身体の使い方やバランス感覚を養い、運動能力の向上を目指す。 ・微細運動の発達支援：手先の器用さを育てるために、運筆やボタン掛けなどのトレーニングを取り入れる。 ・音韻意識の向上：言葉のリズムや音を意識し、文字の学習につなげる支援を行う。 ・視覚的支援の活用：スケジュールや課題を見える化し、理解しやすい環境を整える。 ・安心できる環境づくり：児童が安心して活動できるよう、配慮の行き届いた環境を提供する。 ・保護者様との連携：定期的な相談や情報共有を行い、家庭と連携しながら支援を進める。 ※このような支援方針を基に、児童一人ひとりの成長を支える環境を整えていきます。
営業時間	10時00分～17時00分

プログラム	平日午後(学校終わり～17時00分)の支援内容(5領域)
生活習慣 構造化 (常時)	手洗い・体温チェック・荷物の整理・排泄習慣・スケジュールや時間・環境・手順の構造化・衣類の着脱(身支度)など、生活スキルの向上。
個別課題	連絡帳を出して、各児童宿題を始めます。保護者様のニーズを踏まえ、専門職による専門的支援計画(6か月)の内容に即して、各児童ごとの発達状況に応じた発達促進課題を個別・集中的に実施する(課題によっては集団の場合や自由遊びの機会を利用して個別・集中的に専門職が関わる場合もあり)。
自由遊び	応用行動分析(ABA)の理論にのっとり、課題への取り組み→好きなおもちゃを選んで遊ぶことの随伴性を持たせることで、課題への取り組みを強化させる。おもちゃの貸し借り、ルールを守っての共同遊びなど、遊びを通じた社会性の促進の機会。二項関係から三項関係への促進の機会。
おやつ (16時00分)	5～6種類から好みのものを選択(アレルギーのあるお子さまは、ご家庭よりご持参いただく)。
運動 (16時15分)	運動サーキット(マット運動・太鼓橋渡り・移動ジャンプor移動ケンケン・バランスストーン・ボルトリングなど)
集団活動 (16時20分)	5領域(健康生活・運動感覚・認知行動・言語コミュニケーション・人間関係社会性)のプログラムの実施(スタッフによるオーダーメイドで考案された内容で、日々バラエティに富んだ内容)。
おわりの会 (16時50分)	絵本の読み聞かせ・お帰りのご挨拶・保護者様への療育のフィードバック。送迎。
家族支援	
保護者のニーズを踏まえ、子どもの発達状況や特性の理解に向けた相談支援。子育ての困りごとへの相談支援。保護者同士の交流の機会提供(保護者会の開催)。兄弟姉妹への相談支援。	
移行支援	
・インクルージョン(地域社会への参加・包摂)を推進する観点から、支援の中に「移行」という視点を取り入れ、こどもや家族の意向等も踏まえつつ、保育所等の他のこども施策との併行利用や移行に向けた支援、同年代のこどもとの仲間づくり等の「移行支援」について記載する。 ・移行支援は、必ずしも保育所等への具体的な移行だけを念頭に置くものではなく、入園・入学等のライフステージの切り替えを見据えた将来的な移行に向けた準備や、事業所以外の生活や育ちの場である保育所等の併行利用先や学校等での生活や支援の充実、こどもが地域で暮らす他のこどもと繋がりながら日常生活を送ることができるようにすること等、利用児童の地域社会への参加・包摂に係る支援が含まれるものであること。 ・地域の保育所等や子育て支援サークル、地域住民との交流 等 (※)移行支援の視点を持った本人支援や家族支援を行う場合、「項目」の欄は切り分けることなく、「本人支援」「家族支援」と「移行支援」を併記することで差し支えない。	
地域支援・地域連携	
併用事業所や学校等の支援方法や環境調整の情報共有や連携支援。相談支援事業所との情報共有と具体的な支援についての考案、連携。防災を含めた地域住民や関係機関との連携。行事による交流(ハロウィン・餅つき大会ほか)。	
職員の質の向上	
個人的な研修参加への受講補助。本部からのSVの派遣(実際の事象について行動観察後、具体的な支援についての提案)。虐待防止・身体拘束・感染症の必須研修の受講。定期的な支援会議の開催。多職種スタッフの輪番制による支援研修の実施。	
主な行事等	
流しうめん(夏)・夏祭り(夏)・ハロウィン(秋)・クリスマス会(冬)・餅つき大会(年末)・親子サッカー(不定期)・消防訓練(年2回)・保育キャラバン(近隣の保育園の行事参加)・保護者会(製作・演奏・ビンゴ大会・グループ箱庭ほか)。	

こぼんはうすさくら堺教室 放課後等デイサービス発達支援 土曜日のプログラム

法人理念	「すべての答えは、児童の中にあります。可能性を見つけてさしあげる集団になろう！」
支援方針	・個別支援の充実：一人ひとりの発達段階や特性に応じた個別支援計画を作成し、適切な支援を提供する。 ・小集団活動の促進：コミュニケーション力や社会性を育むために、小集団での活動を取り入れる。 ・スモールステップの学習：無理のないペースで成功体験を積み重ね、自信を育てる。 ・感覚統合アプローチ：感覚の偏りに配慮し、適切な感覚刺激を提供することで身体の使い方をサポートする。 ・言語発達支援：理解語彙や表出語彙を増やし、コミュニケーションの幅を広げる支援を行う。 ・日常生活動作の習得：生活に必要な動作を自立して行えるよう支援する。 ・協調運動・粗大運動：身体の使い方やバランス感覚を養い、運動能力の向上を目指す。 ・微細運動の発達支援：手先の器用さを育てるために、運筆やボタン掛けなどのトレーニングを取り入れる。 ・音韻意識の向上：言葉のリズムや音を意識し、文字の学習につなげる支援を行う。 ・視覚的支援の活用：スケジュールや課題を見える化し、理解しやすい環境を整える。 ・安心できる環境づくり：児童が安心して活動できるよう、配慮の行き届いた環境を提供する。 ・保護者様との連携：定期的な相談や情報共有を行い、家庭と連携しながら支援を進める。 ※このような支援方針を基に、児童一人ひとりの成長を支える環境を整えていきます。
営業時間	10時00分～17時00分

プログラム	土曜日/午後(10時00分～17時00分)の支援内容(5領域)※支援内容・プログラムにより時間変動
生活習慣 構造化 (13時50分/常時)	手洗い・体温チェック・荷物の整理・排泄習慣・スケジュールや時間・環境・手順の構造化・衣類の着脱(身支度)など、生活スキルの向上。
その日ごとの特別プログラム	・サッカー教室 ・クッキング(サンドイッチ・ホットケーキ・バレンタインチョコ・おにぎり・ハンバーガー・うどん・カップケーキ・流しそうめんなど) ・制作活動(ロボット制作・怪獣制作・うちわ風鈴制作・手づくりランプ・模造紙に絵を描こう・スノードーム・サッシュ作りなど) ・お出かけ(浜寺公園・お花見・大泉緑地・長居公園・天王寺動物園・大阪名物を買いに行こう・フットサル観戦・岸和田自然博物館・大仙公園 住吉大社初参り・図書館・博物館など・各種イベントプラレール博物館など)
集団活動 (14時20分)	5領域(健康生活・運動感覚・認知行動・言語コミュニケーション・人間関係社会性)のプログラムの実施(スタッフによるオーダーメイドで考案された内容で、日々バラエティに富んだ内容)。2つの小集団。
特別プログラム	保護者様のニーズを踏まえ、専門職による専門的支援計画(6か月)の内容に即して、各児童ごとの発達状況に応じた発達促進課題を個別・集中的に実施する(課題によっては集団の場や自由遊びの機会を利用して個別・集中的に専門職が関わる場合もあり)。
おわりの会	絵本読み聞かせ・SSTなど(その日の予定により変更あり。)

家族支援

保護者のニーズを踏まえ、子どもの発達状況や特性の理解に向けた相談支援。子育ての困りごとへの相談支援。保護者同士の交流の機会提供(保護者会の開催)。兄弟姉妹への相談支援。

移行支援

・インクルージョン(地域社会への参加・包摂)を推進する観点から、支援の中に「移行」という視点を取り入れ、こどもや家族の意向等も踏まえつつ、保育所等の他のこども施設との併行利用や移行に向けた支援、同年代のこどもとの仲間づくり等の「移行支援」について記載する。
・移行支援は、必ずしも保育所等への具体的な移行だけを念頭に置くものではなく、入園・入学等のライフステージの切り替えを見据えた将来的な移行に向けた準備や、事業所以外の生活や育ちの場である保育所等の併行利用先や学校等での生活や支援の充実、こどもが地域で暮らす他のこどもと繋がりながら日常生活を送ることができるようにすること等、利用児童の地域社会への参加・包摂に係る支援が含まれるものであること。
・地域の保育所等や子育て支援サークル、地域住民との交流 等
(※)移行支援の視点を持った本人支援や家族支援を行う場合、「項目」の欄は切り分けることなく、「本人支援」「家族支援」と「移行支援」を併記することで差し支えない。

地域支援・地域連携

併用事業所や園との支援方法や環境調整の情報共有や連携支援。相談支援事業所との情報共有と具体的な支援についての考案、連携。防災を含めた地域住民や関係機関との連携。行事による交流(ハロウィン・餅つき大会ほか)。

職員の質の向上

個人的な研修参加への受講補助。本部からのSVの派遣(実際の事象について行動観察後、具体的な支援についての提案)。虐待防止・身体拘束・感染症の必須研修の受講。定期的な支援会議の開催。多職種スタッフの輪番制による支援研修の実施。

主な行事等

流しそうめん(夏)・夏祭り(夏)・ハロウィン(秋)・クリスマス会(冬)・餅つき大会(年末)・親子サッカー(不定期)・消防訓練(年2回)・保育キャラバン(近隣の保育園の行事参加)・保護者会(製作・演奏・ビンゴ大会・グループ箱庭ほか)。